

# 学校法人滋慶学園 札幌看護医療専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年4月21日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31日)による

自己点検・評価項目	自己評価	自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
	優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
<b>基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント</b>					
<b>小項目1-1 教育理念、目的及び目標の設定等</b>					
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科ごとに育成する人材像を明確にしていること。	3	建学の理念である実学教育・人間教育・国際教育に基づき、学校全体の目的・目標を明確に設定している。各学科においても業界ニーズを踏まえた育成人材像を具体的に定義し、教育活動に反映している。これにより、教育内容と社会的要請との整合性が確保されている。	産官学連携およびICT教育を中核とした教育方針を全学で共有している。新さっぽろ地区の地域特性を活かし、地域医療を支える人材育成という明確な方向性を持った学校運営を実現している。	3・2・1	ICT教育と情報共有が即時に行われ積極的に取り組んでいることは魅力に感じる。  学校の理念等について、情報共有がなされ浸透が図られている。
<b>小項目2 職業教育のマネジメント体制の整備</b>					
1-2-1 職業教育を推進(教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等)するために必要なマネジメント体制を整備し、有効に機能していること。	3	教育活動の企画・設計から実施、検証、改善に至るまでのマネジメント体制を整備している。運営会議や教務会議を通じてPDCAサイクルを機能させ、組織的な教育改善を継続している。全教職員への方針共有も徹底されている。	月次の運営会議および全体会議により、迅速な意思決定と情報共有を実現している。現場レベルまで浸透したマネジメント体制により、変化への対応力を高めている。		

基準2 教育課程、教育の実施、学修成果				
小項目2-1 教育課程の編成と授業科目				
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	3	教育課程編成方針に基づき、基礎から応用へと段階的に学習できる体系的なカリキュラムを編成している。授業科目は教育目標達成に必要な内容で構成されており、実践力の育成に重点を置いている。教育の一貫性と到達目標の明確化が図られている。	ICT教育や実習教育を組み合わせたカリキュラム設計により、知識と技能を統合的に習得できる環境を整備している。実務に直結した教育内容が特色である。	3 2・1 企業との連携が円滑に行われている。 計画的に実施されている。 実際に授業にてタブレットを活用している学習状況を確認した。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【職業実践専門課程】	3	教育課程編成委員会を設置し、外部有識者や業界関係者の意見を反映した教育内容の見直しを行っている。定期的な開催により、教育課程の妥当性と実効性を検証している。教育の質保証に資する体制が整備されている。	地域医療機関や企業との連携により、現場のニーズを教育に反映している。実践的視点からのカリキュラム改善が継続的に行われている点の特徴である。	
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を300時間以上開設していること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	2	現時点において本プログラムの対象となる教育課程は限定的であるが、留学生教育の必要性は認識している。今後の社会的ニーズを踏まえた体制整備を検討している。教育機会の拡充に向けた準備を進めている。	将来的な留学生受入拡大を見据え、日本社会理解教育やキャリア支援体制の構築に向けた検討を進めていく。	
小項目2-2 教育課程の実施				
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	3	授業内容に応じて講義・演習・実習等の適切な教育手法を選択し、教育効果の最大化を図っている。教材についても教育目標に適合したものを使用している。成績評価は明確な基準に基づき公平に実施されている。	科目単位での授業アンケートを導入し、学生の声を迅速に授業改善へ反映している。継続的な教育の質向上に向けた仕組みが確立されている。	3 2・1 立地は新さっぽろ地区でとても良く、地域に実習・就職などで連携をとってくれる医療機関が多数あり、環境には恵まれている事を再確認できた。 授業アンケート等をシステム導入する等改善が図られている。 適正に計画・運営されている。 今後も地域との連携を期待する。 授業や資格取得等のモチベーションを高める為に実務に就いている卒業生を活用した授業を展開して欲しい。
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という)の授業を行っていること。また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【職業実践専門課程】	3	医療機関や企業と連携した実習・演習を体系的に実施している。教育目標達成に必要な実践的学習機会を確保しており、職業人としての基礎力を養成している。実習時間も適切に設定されている。	新さっぽろ地区の医療機関との強固な連携により、地域密着型の実習環境を実現している。実習を通じた就職実績にもつながっている。	

小項目2-3 単位・卒業認定				3・2・1	教育成果の可視化する仕組みとは、具体的にどのようなものを可視化することが望まれる。
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	3	卒業認定方針を学科ごとに明確に定め、その基準に基づき適正な卒業認定を実施している。資格取得および職業能力の修得を重視した方針となっている。教育の成果を可視化する仕組みが整備されている。	国家資格取得を前提とした教育設計により、実践力と専門性を兼ね備えた人材育成を目指している。		
小項目2-4 学修成果目標の達成状況				3・2・1	<p>視能訓練士や歯科衛生士等合格率100%を達成していることは素晴らしい。臨床工学技士学科は国家試験合格率が問題傾向の変化もあり、全国的にも低迷しているが貴校も課題が残る。国家試験勉強の対策では色々な工夫をしているが、合格率については入学希望者の学校選択にも関わる事項なのでさらなる改善と対策が必要と思われる。</p> <p>目標の達成に向けた取り組みが行われており、DO率の改善は学校・教員の様々な取り組みの成果であり、今後も期待できる。</p> <p>法人全体での対策センター等、全国に教育施設を持つ法人の特色が生かされている。</p> <p>AIの活用で不適応者の減少や退学率の改善が図られている。キャリアセンターの充実は非常に重要であり取り組みがなされている。</p>
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	3	学生の学修成果について、国家試験結果や成績評価を通じて把握・分析を行っている。教育成果の検証を継続的に実施し、改善に活用している。データに基づく教育運営が行われている。	国家試験対策センターを活用し、学習進捗や弱点分析を行うことで、合格率向上に寄与しているが、一部の学科では国家試験の合格率の低下があり改善に取り組む必要がある。		
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	3	学生の進路に関する目標として就職率および国家試験合格率の高水準維持を掲げている。キャリアセンターと教務が連携し、個別支援を徹底することで目標達成に向けた取り組みを行っている。結果として安定した就職実績を維持している。	産官学連携による就職先の確保や個別面談を重視した支援により、学生一人ひとりの進路実現を支援している点が特徴である。		

基準3 学生の受入れ、学生支援			
小項目3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理			
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	3	入学者受入方針および入学選考基準を明確に定め、募集要項等で公表している。選考は規定に基づき公正かつ厳正に実施されており、透明性が確保されている。適正なプロセスで合否判定を行っている。	Webを活用した情報公開や説明機会の充実により、受験生が安心して出願できる環境を整備している。
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【修学支援新制度機関要件の確認】 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	1	入学定員に基づき適正な学生受入れを目指している。社会環境の変化に合わせた学生募集活動を実施したが、一部学科間では定員との差異が発生してしまっている。引き続き計画的な定員管理の実施を目指していく。	ICTを活用した広報や早期接触型の募集活動により、志願者の確保と出願率向上を図っている。
3 ● 2 ● 1			
<p>大学志向の増加、医療系志望者の減少、少子化といった様々な社会状況の中で、定員未達の学科もあるが、入学者をある一定数確保できている現状は評価できる。高校生がHPやSNS等で学校現状を把握でき魅力を発信できるよう尽力した結果に繋がっていると感ずる。特にインスタグラム、フォロー数の上昇を認める。</p> <p>医療系志望者を今後増加させていく上で、職業認知も大切な事項であり様々な工夫をしている貴校の取り組みを応援したい。</p> <p>学生募集は大変であるが改善されている。今後更に学校の特色を出して頂きたい。</p> <p>学生募集が少子化や医療業界の魅力が減少している中で健闘されているが、定員数を満たすと同時に本学にふさわしい学生の受け入れを重視した取り組みによる定員割れはやむを得ないと感ずる。</p>			

小項目3-2 多様な学生に対する修学支援				3・2・1	<p>初対面では話がしづらい新入生にカウンセラーの紹介の場をつくる、動画をみる事に慣れているザルファ世代なので動画を活用するなど、相談しやすい環境づくりの対策は、生徒目線で考えられている。</p> <p>カウンセラーの土曜日対応等相談しやすい環境づくりが成されている。</p>
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	3	障がいのある学生や社会人経験者など、多様な学生に対応した支援体制を整備している。個別対応を基本とし、修学継続に向けた支援を適切に実施している。学生の多様性に配慮した教育環境が整っている。	SSC(Student Service Center)を中心とした支援体制により、心理面・生活面を含めた包括的支援を行っている。		
3-2-2 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	留学生に対して適正な在籍管理および進路指導体制を整備していく。就職支援や学習支援を通じ、日本国内でのキャリア形成を支援し、教育環境としての受入体制を整備していく。	日本人学生との交流機会を設けることで、相互理解を促進し、学習環境の活性化につなげていく。		
3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	奨学金制度や各種支援制度を整備し、学生の経済的負担軽減に取り組んでいる。制度の周知と適切な運用により、安心して学修に専念できる環境を提供している。	修学支援新制度への対応を含め、経済状況に応じた支援を柔軟に実施している点が特徴である。		
小項目3-3 学生生活に関する支援				3・2・1	<p>スクールカウンセラーの支援等体制を整えている。</p> <p>修学支援制度等充実に努めている。</p> <p>適切に運用されている。</p> <p>スマホのアプリ登録や安否確認システム等システムが充実している。</p>
3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	3	カウンセラー配置および相談体制を整備し、学生の心理的支援を行っている。相談室の運営により、安心して相談できる環境を提供している。学生支援の質向上につながっている。	土曜日開室の導入により利用機会を拡大し、相談件数の増加など実効性の高い支援体制を構築している。		
3-3-2 学校保健安全法に基づき学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	学校保健安全法に基づき学校保健計画を策定し、学生の健康管理体制を整備している。定期的な健康管理および安全管理が適切に運用されている。	安否確認システムの導入や防災意識向上の取り組みにより、安全・安心な学習環境を確保している。		

小項目3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援				3	2	1
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を通じた学習支援を実施している。シラバスの活用により学習目標の明確化と学習成果の向上を図っている。個別対応を重視した支援体制が整っている。	基礎学力テストによる早期課題抽出と支援体制の構築により、学習習慣の定着を促進している。			
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	3	課外活動や自主的な学習活動を支援し、学生の主体性を育成している。正課外での活動を通じて人間力の向上にも寄与している。	ピアサポートやクラス活動など、学生同士の相互支援を促進する仕組みを導入している。			
基準4 教員・教育実施組織						
小項目4-1 教員の配置、募集、採用				3	2	1
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に配置していること。	3	教員採用において必要な資格・要件を明確にし、基準に基づいた適正な配置を行っている。教育の質を担保する体制が整備されている。	実務経験豊富な教員の確保により、現場に即した実践的教育を実現している。			
小項目4-2 教員の組織編制等				3	2	1
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	3	教育目的に応じた教員組織体制を整備し、役割分担と責任体制を明確にしている。分野ごとの専門性を活かした教育運営が行われている。	学科間の連携や情報共有により、組織全体として教育効果を高めている。			
<p>ピアサポート制度に関しては、交流会、実習報告会でも実施されており、先輩が後輩に教えるシステム等学内実習などに今後活用できたらよい。</p> <p>学生同士の助け合いを促すよう取り組んでいる。</p> <p>学園全体でテスト結果を分析出来、活用できるシステムは学生にとって良い。</p> <p>ピアサポート制度により学生同士のコミュニケーションが増え、実習先等では先輩との交流が図られていることは素晴らしい。</p> <p>教員の充足が図られている。</p> <p>外部講師に差異があるので実践力向上した適正配置が必要と感ずる。</p> <p>グループ全体で組織的に対応している。</p>						

小項目4-3 教員の資質の向上				
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	FD活動を通じて授業内容および指導方法の改善に取り組んでいる。教員の自己研鑽を促進し、教育の質向上につなげている。	教育部会や研修制度を活用し、継続的なスキルアップの機会を提供している。	<p>今後AI活用の機会も増加する中でDX推進を積極的に教員の教育にも実践している環境が整っている。</p> <p>教員には教員研修や学生には入学前研修等学びの機会を適切に設けている。</p> <p>法人全体や学校独自で教員のレベルアップを図られている。</p> <p>教員のDXの強化が課題。</p>
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【職業実践専門課程】	3	教員の専門性向上を目的とした研修を企業等と連携して実施している。最新の知識・技術を教育に反映する体制が整備されている。	医療現場との連携により、実務に直結した研修内容を取り入れている。	
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【職業実践専門課程】	3	教員の授業力および指導力向上に向けた研修を体系的に実施している。教育の質を継続的に高める仕組みが構築されている。	国家試験対策や教育技法に関する研修を組織的に実施し、教育力の底上げを図っている。	

3・2・1

基準5 教育環境						
小項目5-1 教育環境の整備点検、改善 FD活動を通じて授業内容および指導方法の改善に取り組んでいる。教員の自己研鑽を促進し、教育の質向上につなげ				3	2・1	
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。(補修、更新含む)	3	設置基準および関連法令に基づき、教育に必要な施設・設備を整備している。適切な更新・維持管理により教育環境を確保している。	iPadやVR機器など先進的なICT設備を導入し、教育の高度化を推進している。			校内は清潔で勉学に励める環境が整っている。 ICTを率先して取り入れる取り組みが素晴らしい。
小項目5-2 安全対策、防災組織						
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	3	学校安全計画に基づき、安全対策および防災対策を適切に実施している。安全管理体制が組織的に整備されている。	定期的な防災訓練を実施し、学生・教職員の安全意識向上に取り組んでいる。	3	2・1	災害に対して情報共有できるアプリやSNS等の活用をされている。 適切に計画的に運営されている。
基準6 教育活動の基盤と情報の公表						
小項目6-1 中期事業計画と財務基盤						
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	中期事業計画に教育目的・目標の実現に向けた具体的施策を明確に位置付けている。計画的な学校運営が行われている。	産官学連携およびICT教育を中核とした成長戦略を明確に打ち出している。	3	2・1	明確なビジョンが示されている。 適切に健全に運用されている。
6-1-2 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 【修学支援新制度機関要件の確認】 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	教育活動を安定的に実施するための財務基盤の確立に努めている。収支計画に基づいた健全な財務運営を行っている。	校舎資源の外部活用など、新たな収益確保に向けた取り組みを推進している。			

小項目6-2 学校運営				3	2・1	人材育成等が適切になされている。 法人の事業計画に基づいた運営が適切にされている。
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	3	学校運営に必要な組織体制を整備し、適切な運営を行っている。意思決定プロセスも明確であり、効率的な運営が実現されている。	会議体を活用した情報共有と迅速な意思決定により、組織としての機動力を高めている。			
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身につけ、意欲及び資質を向上させるためにSD (Staff Development) 活動などの取組が行われていること。	3	SD活動を通じて職員の知識・技能向上を図り、組織力の強化に取り組んでいる。継続的な人材育成が実施されている。	研修体系の整備により、職員の専門性と業務遂行能力の向上を推進している。	3	2・1	ホームページもわかりやすく作られている。
小項目6-3 社会からの理解と情報の公表						
6-3-1 当該専修学校の教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表し、継続する教育機関、産業界、自治体等をはじめ、社会全体からの理解を得よう取組んでいること	3	教育活動および学校運営に関する情報を積極的に公表し、社会的説明責任を果たしている。透明性の高い学校運営が実現されている。	ホームページを中心とした情報発信により、地域・業界からの信頼確保に努めている。			